



環境から 六つの言語を習得

前駐日ニュージーランド特命全権大使
past-Ambassador of New Zealand to Japan

ジョン・マッカーサー氏

H. E. Mr. John McArthur

Profile

ウェリントンのヴィクトリア大学にてBA (Hons) 学位、フランスのToulouse Le Mirail大学にて博士号を取得。1983年外務省入省。上海では総領事、MFATセキュリティポリシー部の管理者、ASEAN地域フォーラムの特別代表として就任。また北京のニュージーランド大使館、台北のニュージーランド商工業オフィスなどでの勤務を経て、駐日ニュージーランド大使に就任。

日本人には、「本音」と「建前」という
のがあります。

これはちょっと難しいですね

池崎 日本にいらしてから、何年におなりですか。

マッカーサー 今で2年半です。

池崎 最初から日本語を使ってお仕事を始められたのでしょうか。

マッカーサー 最初の1年半は研修生として仕事をしながらフルタイムで日本語を勉強し、去年の4月に正式に大使としての赴任になりました。

池崎 まあ…ニュージーランドの外務省というのは1年半も大使になるまでに研修があるのですか。

マッカーサー 大使としてはちょっと珍しいケースです。二等書記官として大使館に赴任する場合は、通常、日本語を2年間勉強します。中国の場合もそうですし韓国の場合もそうです。

池崎 大使は、中国と日本で大使としてのご経験を持っていらっしゃると思いますが、今いろいろな問題が日本と中国の間にある中で、大使はどのようにこの二つの国をご覧になっていますか。日本と中国は将来どういう関係でいくと宜しいとお考えですか。

マッカーサー そうですね。中国と日本は二つの大きな国です。中国は大きな国で長い文化があります。またアジアの他の国々と大切な折衝がありますので、アジアの将来に大きな役割を果たしています。また日本にも長い歴史があり、アジアの中で大きな役割を果たしています。ですから、この二つの国というのは、摩擦がある中でも今後うまくやっていかなければいけないと思います。歴史的にもこの二つの国にはいろいろな関係がありましたね。1000年前、中国の言語は現代日本語の「ひらがな、かたかな」の基礎になりました。その後、宗教も中国から影響を受けたのですから、今の段階でも、

やはり中国人と日本人との間の交流は、非常に大切だと思います。

池崎 私も中国の王毅大使にお目にかかった折に「人との交流というものは今、特に大事な仕事でしょう」ということで励ましていただきました。

大使がお感じになる中国人と日本人のコミュニケーションの仕方では何か特別に違うとか、お気づきのところはありますか。

マッカーサー そうですね。アジア人には特有のコミュニケーションの仕方があります。中国人や日本人のコミュニケーションは、英語が話せる人と全然違います。アメリカ人やヨーロッパ人は、率直なコミュニケーションを好みますが、アジア人の伝統的なコミュニケーションの仕方は、違います。

建前を必要とするコミュニケーションは、とても丁寧なやり方で話し合うことができる一方、悪い面の意味として、率直ではないのかもしれませんが。もちろん、これはブラック&ホワイトの分析なのですが、すべてのアジア人がそうというわけではありません。でも、だいたいそういう大きく違うところがあります。それは良いこともあるし悪い面もありますね。

池崎 私は、中国の方は割合直接的だと思いますが。

マッカーサー そうですね。中国人の方が日本人よりもう少し直接的かもしれません。

池崎 日本人はやっぱり最後まで分からないとかあいまいということはありますか。

マッカーサー そのとおりですね。それは文法からくる問題もありますね。例えば日本語で良くある、二重否定。

池崎 「行かないというわけではない…」

マッカーサー そうですね。それから例えば日本人を、もう少し深いレベルで見るとき、中で感じていることと、外で表現していることが異なる、本音と建前というのがあります。これはちょっと難しいですね。

日本語ができると、 より密接な関係を作ることができる

池崎 大使は日本語を勉強なさった結果、日本文化や日本人を理解するのにとても役にたったという感じをお持ちですか。

マッカーサー とても役に立ちました。外務省と話し合うときには、もちろん英語でもいいですし日本語でもいいのですが、重要なところで通訳者がいないと日本語ができない人は、少しハードになりますね。

池崎 大使は平成会のメンバーでいらっしゃいますが、官房長官など内閣の重要なポストに就かれた方と直接お話になって、いろんな感触とかいろんな考え方をとるといいますか、それはとても有効だと思いますか。

マッカーサー 確かにそうですね。政治家と知り合う場合は、日本語ができれば、より密接な関係を作ることができます。

マッカーサー 地方にいた時は、(政治家で)英語ができる人は少なかったので、日本語が必要でした。文章を作ることができればうまくコミュニケーションがとれました。次にスピーチですね。スピーチは私たちの仕事の中で大切な道具ですね。日本語ができると、そういうスピーチをする時、時間も短縮できるし、意味を直接伝えられるからとても良いと思っています。

池崎 シャネルの社長でいらっしゃるリシャール・コラスさんは、通訳を入れると熱さが伝わらないとおっしゃっておいででした。

マッカーサー それは本当です。

池崎 今日日本人の政治家とやり取りをする場合は、日本語が出来た方が良くとおっしゃる意味には、日本の政治家は日本語以外の



言葉のツールを持ってないからだと思うんですけども、やはり日本にとっては、残念なことですね。やはり言語は二つぐらい勉強していた方が良くということですね。

自国以外の文化を知るために 外国語が必要です

池崎 企業のリーダーの方も英語ができたら良いということで、日本も英語の教育について小さい時から勉強した方が良くという意見もありますが、私達が心配しているのは日本語の教育もしっかりやらないと、自分の母語も出来ないということです。

マッカーサー それも難しい問題ですね。小さな子供は自分の母語を良く勉強しなければならない。それは当たり前ですね。小さい子供の脳は、とてもフレキシブルですね。その頃に母語を学ぶと共に、いろんな言語を習った方が良いです。

池崎 大使ご自身はどういう環境で六つの言語をマスターするようになられたんですか。

マッカーサー 小さい時からフランス語も、イタリア語もやりました。

池崎 外国語が入ってくる環境だったのですか。

マッカーサー フランス語は2歳ぐらいからです。

池崎 2歳ぐらいの時から英語の他にフランス語もということですね。

マッカーサー そうですね。

池崎 ご両親はフランス系でいらっしゃいますか。

マッカーサー 二人ともニュージーランド人です。2歳ぐらいの時フランスに住んでいました。その後はイタリアにも住んでいました。

池崎 外国語が上手になるにはそういう環境をつくるのが一番なのでしょうか。どうやったら言葉が上手になるかという良いアイデアはございますか。

マッカーサー 今はグローバル化の時代です。インターネットでいろんな事ができるし、ミュージック、テレビもラジオも、言語の関係はもっと強くなりました。ニュージーランドでも私が子供の時には、メディアから外国語が全然聞こえませんでした。

池崎 考えてみますとニュージーランドと日本は同じような島国ですよ。海に囲まれていますね。ニュージーランドの若い方々の外国語はいかがですか。

マッカーサー 全体的にニュージーランド人もあまり外国語ができません。でも今の若い人はほとんど外国に行きます。

池崎 外国に行くということがやっぱり大事なことなのですね。

マッカーサー そうですね。

池崎 学生の時の留学などが多いのでしょうか。

マッカーサー そうですね。海外経験は大切ですね。でも本当は外国語はそんなに上手じゃないんです。北ヨーロッパの人と比べると弱いです。

池崎 日本人と比べてどうですか。

マッカーサー 同じようですね。英語が話せるので、他の言語を選択するという考えはあまりないですね。

池崎 でもニュージーランドで日本語を勉強していただいている方はとても多いというふうに聞きますが。

マッカーサー 最近になってニュージーランドの小学校、高校でも外国語を教えるようになりました。

池崎 日本語の、例えばExchange programのようなものは、ニュージーランドの学校にありますか。

マッカーサー それもあります。

池崎 そうですか。ニュージーランドからどこかの県にたくさん行くとかということはあるんですか。

マッカーサー それもあります。学校間交流です。

池崎 それでは最後に、日本の若い人達に何かメッセージとして、大使から最後にお聞かせ願えますか。

マッカーサー 一番大切なことは、自分の文化以外のことを知るためにいろいろな努力をしなければならないということです。

池崎 そのために言葉も必要であるということですね。本日はお忙しい中をお時間いただきまして、本当にありがとうございました。

